

平成 30 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 教育・理科
氏 名 伊藤信成

活動テーマ	東紀州地域の星空の観光資源化（神々が愛した星空発信プロジェクト）
実施期間	平成 30 年 6 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日
活動内容	<p>（1）具体的な活動実施内容</p> <p>東紀州地域は世界遺産の熊野古道を有し、文化的知名度は世界クラスである。昼間の充実したアクティビティに夜間のアクティビティを加えることができれば、日帰りでも東紀州を訪れていた層に宿泊してもらうことができ、活性化に貢献できる。昨今、「星空ツーリズム」という言葉が生まれ、美しい星空を見たいという層が増えている。東紀州地域を星空ツーリズムの地として認知してもらい、多くの観光客を呼び込むための活動として、初年度となる今年度は①熊野市近郊の夜空の暗さの調査、②インフルエンサーとなり得る天体写真愛好家等のパイロット的誘致、③地域住民が自らの地域の星空の価値を知ってもらうための観望会の開催を、観光協会との連携の下で行った。</p> <p>（2）地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）</p> <p>地域活性化を目的として実施された熊野サミット 2018 にて、本取組みの概要を紹介した。プレゼン後、参加した地域住民、行政関係者から、問合せをいただいた。具体的な取組みに発展する可能性が期待できる。</p> <p>熊野の星空が観光資源となり得ることを地域住民に知ってもらう必要がある。そのため丸山千枚田。赤木城跡を会場に星空観望会を開催した（図 1）。当日は 50 名程の参加者があった。参加者からは、「熊野の星空が日本有数であることを初めて知った」、「熊野に住んでいるが、星空をしっかりと見たのは初めて」といった感想が聞かれ、継続的な観望会の実施についても要望が寄せられている。</p> <p>また、12 月には天文教育普及や天体写真撮影愛好家の方々を集め、熊野で研究会を行った。参加者の多くは熊野の訪問が初めてであった。この会では、熊野の星空の情報を発信するとともに各地での星空の PR 状況等について情報交換を行った。研究会の副産物として、参加者が熊野各地で撮影した星空写真を SNS で発信することで、間接的に熊野の PR に貢献してもらえた。また、熊野で撮影された星空写真は東京にある三重県のアンテナショップ「三重テラス」で展示する機会を得た（2019 年 3 月 10-16 日、図 2）。</p>

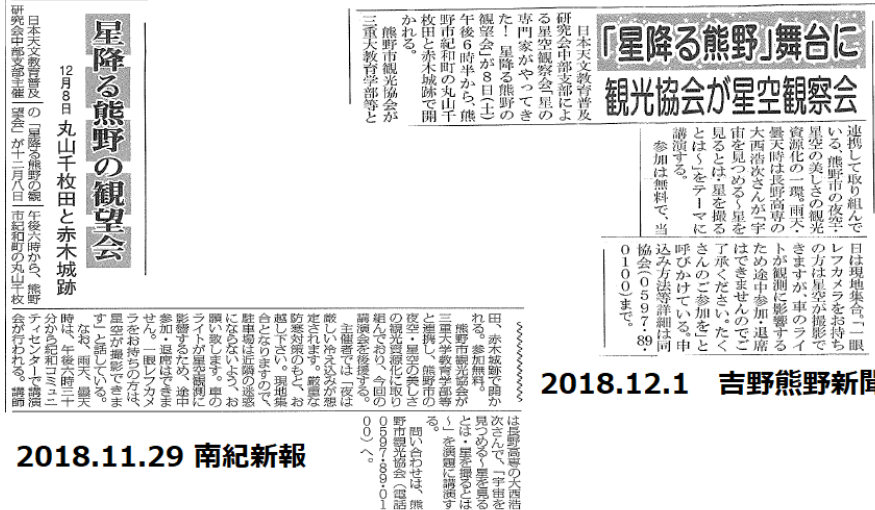


図 1 : 星空観望会に関する記事



図 2 : 三重テラスでの星空写真の展示

(3) 共同実施者との連携状況

共同実施者とは定期的に打ち合わせを行い、観望会、研究会の実施に際し、会場や交通手段の手配など協力をいただいている。また、熊野市内に点在する星空ポイントの情報収集等

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

学生教育に対しては以下の 5 点について大きな貢献をしている。

- 1) 天体画像取得に関する技術の習得
 - 2) 天体測光・天体画像解析の技術習得
 - 3) 望遠鏡操作技術の習得
 - 4) 観望会等で必要になる天体に関する知識の習得
 - 5) 様々な年代層との関りを通じたコミュニケーション力の向上
- 以上より、本取組は学生教育の観点からも有効であると考え

なお、本活動に関する論文・報告として以下のものが出版予定である。

- ・伊藤他, 天文教育, vol.31, pp.35-40, (2019)
- ・伊藤他, 天文教育, vol.32, in press
- ・井上・伊藤, 天文教育, vol.32, in press

(5) イベント等開催実績 (名称, 実施場所, 参加人数等)

天文教育普及研究会中部支部会、紀和コミュニティセンター、30名
星降る熊野の観望会、千枚田・荒木城跡、50名
天体写真入門講座、紀南ツアーデザインセンター、3月末実施予定

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

これまでの取組みによって、観光協会とは良好な関係が築けた。また、行政に対して星空の観光資源化の取組みについて認知してもらうことができた。来年度の活動に向け、熊野市側からも積極的な提案を受けている。